

大学入試改革フォーラム ～高大接続をテーマに～

■ 事例報告

藤井雅徳

(ベネッセコーポレーション英語・グローバル事業開発部長)

常日頃は、全国の高校や大学の方にお伺いをさせて頂きまして、様々な教育改革のご支援をさせて頂いております。そういった中で、最近、日本の高校生が高校を卒業して、直接、海外の大学に進むという動きが顕在化してきています。本日はそういった動きを踏まえて、主に、アメリカのトップの大学がどのような入試を行っているのかにポイントを絞ってご説明をしたいと思います。

ベネッセコーポレーションで、高校向けの様々な教育活動のご支援をさせて頂いています。主には、学力テストがありまして、いま年間の学力テストの延べの受験者は1000万人を超えています。これは基礎学力テスト、IRT型の到達度テストなどがあります。センター試験の現役の志願者がだいたい46万人程度になります。高校入学直後から、3年生の2学期まで、センター試験程度の人数の方が、様々な記述式の学力テストを受験されています。

学校現場はどのように使っているかということ、先生方、生徒を含めて、学力テストを受ける前、受けた後、内容を踏まえて、結果分析のPDCAのサイクルを回して頂いています。主に先生方には、テストの結果を校内の検討会の資料、日々の指導改善のためのエビデンスという形で活用頂いています。そして、高校生は日々の学習の指針として、高校3年間の学習の目標設定として活用いただいています。このような形で、当社は現場に貢献しています。

そうした中で、進路指導の相談も多く頂くようになっていて、最近は日本の大学の入試も複雑になっていますので、受験科目がどうなっているか、出願の締め切りはいつか、この大学のこの学部に進学するとどのような就職、資格が取れるか、などのご相談を受けています。これは、大学進学志望者のみならず、短大、専門学校、就職志望者向けの情報も提供させて頂いています。こういった中で、海外大学に進学したいが、どのようにすればいいのかというご要望が、ちょうど10年ほど前から顕在化しており、事業として展開をさせて頂いています。

昨年度、ベネッセの様々なサービスを通して、日本の高校を卒業して、直接、海外大学に進学した生徒は231人います。アメリカ、イギリス、カナダなど、英語圏を中心に海外の大学進学者が増えています。今年度については、スーパーグローバルハイスクールの1期生が3年生になっていますので、お問い合わせも増えていますし、これからは、国際バカロレア認定校が増えていくと、このようなご要望がさらに増えていくのではないかと考えています。

アメリカの大学を中心とした海外トップ大学への進学をサポートするプログラムを2008年から行っています。ハーバード、イエール、MIT、プリンストン、スタンフォードなど、私たちが調べた学部課程に在籍する日本人の数です。この中で、ベネッセの支援を通して、在籍している日本時の数は、ハーバードは13人中8人、イエールは9人中7人ということで、多くの学生が今、海外のトップ大学に進学しています。



大学入試改革フォーラム ～高大接続をテーマに～

50人延べで卒業生が出ていますが、その進学先をまとめました。だいたい、併願で10大学ぐらい、海外の大学を受験しますが、例えば、ハーバードに進学した生徒は、イエールやプリンストンなどにも合格しています。進学先では、ハーバードが11人、イエールが9人、プリンストンに5人が進学しています。ほとんどが、普通科の一条校の生徒が、直接、海外の大学に進んでいます。

日本の大学進学と違う特徴があります。ハーバード大学に合格しても、イエールやプリンストン大学に進学した生徒もいます。ほかに、ハーバード、イエールに合格しても、プリンストンに進んでいる生徒もいます。日本は、東京大学を頂点として、難易度が高い大学から順番に進学先を決める傾向があるかと思いますが、アメリカの大学は大学の取り組みに個性があるので、子どもたちがどういったことを学びたいのか、大学側がどういう教育プログラムを提供しているのかというマッチングによって、進学先が異なるというのが特徴です。あとは、海外の大学、特にアメリカの大学は学費が高いです。だいたい年間で400万円ぐらいです。ハーバード、イエールなどに集中するのは、理由があります。実は、これらの大学群は、ご家庭の所得に応じて、授業料が変動するシステムがあります。生徒によって授業料が異なります。例えば、ハーバード大学は世帯所得が日本円で650万円以下の家庭は授業料が全額タダです。そして、650万円から1500万円程度のご家庭は、10%以内、つまり、数十万円です。授業料は、家庭の所得に応じて変動するシステムを持っていますので、つまり、下宿をして東京の大学に行くよりも、アメリカのトップ大学に行った方が4年間の生活費を含めると安いという傾向が出てきます。このようにアメリカの大学には、世界中の優秀な学生を引きつける仕組みがございます。

また、リベラルアーツカレッジに進学する生徒も多くいます。ポモナなど、だいたい1学年の学生数が300人から500人程度の少人数の大学です。大半の大学が大学院を持っていません。大学の先生方は、ティーチングを中心に丁寧に指導してくれるので、リサーチ大学に行くのは大学院からで、大学の4年間はリベラルアーツカレッジに行くという生徒も増えています。リベラルアーツカレッジは、IVYリーグとレベルが変わらない所もあります。このような動きも出ています。

そして、東京大学と海外トップ大学両方に合格して、東京大学に進んだ生徒は、今のところ0人です。今まで12人が東京大学に合格していますけれど、理Ⅲに合格した2人も含まれています。結果として、海外の大学に進学をしています。様々な理由がありますが、まず一つは、アメリカの大学は、リベラルアーツの教養教育をものすごくしっかり取り組んでいますので、文系でも理系でも、両方学べるという教育プログラムが、知的好奇心が旺盛な18歳の高校生には、かなり魅力に感じます。例えば、コンピューターサイエンスと経済と哲学は人気のある分野ですが、この3つをしっかり学びたくても、日本の大学ではなかなか文理をまたがって勉強するのは難しいシステムですが、文系理系問わず、生徒の可能性をさらに広げてくれる教育プログラムがあります。2点目は、世界を日本を通して見るのではなく、日本の外から世界を見るというグローバルな視点に、子供たちが興味があると感じています。そして、3点目。指導していて本当に思いますが、就職を意識した大学進学を、この子たちはしない。就職率が良いからハーバードに進むという生徒はいません。コミュニティーを非常に重要視しています。グローバルなコミュニティーがあるか、エリートがいるコミュニティーに入るか入らないかという選択肢の中で、そのコミュニティーが非常に高校生に魅力に映るようです。寮生活を通して、同じ学年、そして、先輩後輩の縦のつながりを含めて、強い結びつきを得られるところが魅力に映るようです。

入試について説明します。実際、日本の大学と海外の大学の併願は可能です。米国のトップ大学は早期と

大学入試改革フォーラム ～高大接続をテーマに～

普通の2つの入試があります。早期入試は、11月の初旬に願書を締め切り、12月中旬には合格が出ます。そのような仕組みが備わっています。そして、レギュラー出願は、1月1日に願書を締め切り、合格発表は4月になります。日本では、この間、センター試験などがありますので、日本の高校生は併願がしやすい状況にあります。

こうした入試を実現しているのは、共通願書のシステムです。これは願書を紙で出すのではなく、インターネットを活用した出願システムを導入しています。一切紙を使わずに、生徒は記録を入力していきます。学校の評定平均値、SAT、TOEFLの成績などのほか、アカデミックの領域での受賞歴、それが校内のレベルか、県大会か全国か世界大会レベルかを書きます。あとは課外活動の実績、部活動、ボランティア、生徒会活動など、どのようなポジションで、どのぐらいの時間を費やしたのかをみます。そして、エッセーをみます。パーソナルエッセーなので、学問に対するエッセーではなく、自分自身に対するエッセーです。エッセーも共通で、5つのトピックから選ぶ。例えば、「失敗経験から何を学んだのか」、「自分が解決した、または解決したい問題を述べなさい」など。あとは、トップの大学を中心に追加のエッセーがあります。主に志望動機、「なぜ、私の大学をえらんだのか」など、大学個別のエッセーがあります。スタンフォードは、「最も好きな本や映画、アーティストを挙げよ」とか、「社会が今直面している最重要課題は何か」などです。そのほか、「将来のルームメイトへの手紙」というエッセーが課されています。

生徒が出す内容だけでなく、先生に最低でも推薦文を2通から3通書いてもらいます。中には、先生でなくても、様々な活動をしていれば、外部の方との結びつきの中から、第三者の方の推薦文を受け付けていたりします。

あとは面接になります。面接は、かなりカジュアルな面接になります。日本では、主に卒業生が中心となって、だいたい喫茶店などでフランクにやります。会社の重役の方なら、会議室に行って面接することもあります。推薦文に加えて、人物の確認と英語力、そして人間性を審査する面接も行っています。

このように様々な観点からアメリカの大学入試は行われています。日本の大学入試もこれからは、多面的、総合的評価に変わっていくとお聞きしていますので、今後の入試改革の検討において、何かの気づきにつなげることができるというふうに思っています。